

# 佐用大水害 10 年 文化財レスキューと地域資料の 防災を考える

## 日時

2020. **2. 29** (土)  
午後 1 時 30 分～

## 場所

さよう文化情報センター  
ギャラリー

令和元年度、佐用町は平成 21 年の水害から 10 年を迎えた。

佐用郡地域史研究会は、この水害で、古文書等、地域の歴史資料をレスキューする歴史資料ネットワークの活動に触れ、資料取扱い講習や講演会で学びを深めるとともに、資料保全を活動の一つに加えた。以来、古文書部会を立ち上げ、襖の下張り文書の解説、研究紀要の発刊、地域の古文書解説等を続けている。

災害時には、人命が最優先ではあるが、その後の復興には地域の歴史資料や伝統文化が欠くことのできない役割を果たすことは、全国で多発する大規模災害からも明らかになってきた。阪神・淡路大震災以後、文化財レスキュー活動組織が全国に広がってきたのも、そうしたものの重要性が認識されてきた証である。

そこで、当会でもこの 10 年を振り返り、再び地域の歴史資料が持つ意味を考える機会にしたいと考えます。

## プログラム

13：30 開会 あいさつ 趣旨説明

13：40 基調講演 松下正和氏 神戸大学・歴史資料ネットワーク副代表  
「災害と歴史資料救済のあゆみ」

14：25 事例報告 竹本敬市 姫路大学・当会会長  
「佐用の水害と資料保全活動から見たもの」  
(休憩)

15：10 ミニシンポ  
「佐用大水害 10 年 文化財レスキューと地域資料の防災を考える」  
コメント 諏訪弘氏 (佐用町防災対策室長)・小野塚航一氏 (神戸大学・歴史資料ネットワーク)

16：00 閉会

佐用郡地域史研究会は地域の歴史資料の保全に取り組んでいます

聴講無料

定員 50 名  
事前申込不要

後援  
佐用町企画防災課

お問い合わせ (平日のみ)  
佐用町教育委員会教育課文化財係内  
(佐用郡地域史研究会事務局)

0790-82-2424